



全国低コスト造林シンポジウム ～コンテナ苗による低コスト造林の拡大～

プログラム

【第1部】低コスト造林システムの展開			
基調講演	低コスト再造林技術の開発	日本森林技術協会 主任研究員	中村 松三
実践者報告1	関東森林管理局における低コスト造林へのチャレンジ	関東森林管理局 森林技術・支援センター 所長	屋代 忠幸
実践者報告2	重機による地拵、低密度植栽による低コスト再造林の実証とコンテナ苗の植栽	ノースジャパン素材流通協同組合 経営企画部長	外館 聖八朗
【第2部】コンテナ苗生産の拡大に向けて			
基調講演	造林資材としてみたコンテナ苗の特質	東京大学大学院造林学研究室 教授	丹下 健
実践者報告3	実生コンテナ苗の育苗	岩手県山林種苗協同組合 副理事長	吉田 正平
実践者報告4	挿し木(スギ)によるコンテナ苗の生産について	長倉樹苗園 代表取締役	長倉 良守
実践者報告5	コンテナ苗による造林コストの低減に向けた熊本県の取組	熊本県農林水産部森林局 森林整備課長	長崎屋 圭太
【第3部】コンテナ苗生産の研究動向			
研究報告1	森林総合研究所における低コスト再造林のためのコンテナ苗生産・植栽研究	森林総合研究所 研究コーディネータ	田中 浩
研究報告2	エリートツリーの特性とコンテナ苗による普及への期待	林木育種センター 育種部長	星 比呂志
【第4部】パネルディスカッション及び質疑			
コーディネーター	日本森林技術協会 主任研究員		中村 松三
パネラー	東京大学大学院造林学研究室 教授		丹下 健
パネラー	全国山林種苗協同組合連合会 会長		太田 清蔵
パネラー	全国森林組合連合会 代表専務理事		肱黒 直次
パネラー	熊本県農林水産部森林局 森林整備課長		長崎屋 圭太
パネラー	林野庁整備課 造林間伐対策室長		宮澤 俊輔
パネラー	林野庁業務課 技術開発調査官		柳田 真一郎

1月22日、林野庁は東京都内において、「全国低コスト造林シンポジウム」を開催しました。日本の森林資源が木材として利用可能な段階を迎えている中、伐採後の低コストでの造林・育林が必要となっていることから、シンポジウムでは、「コンテナ苗」の利用を中心に全国の先駆的な苗木生産者や低コスト造林の実践者、研究者などからの講演・報告と、これらの方々によるパネルディスカッションを行いました。

近年、造林用苗木については、効率的な育成が可能で、簡



生産者報告
(吉田正平氏)

単に、かつ時期を問わず植付けができる「コンテナ苗」が目ざれ、その生産量は、近年急速に増えています。

また、一貫作業システム(左下)基調講演と主な報告(参照)



コーディネーター
(中村松三氏)

等によるトータルコストの削減も期待されています。しかし、造林用苗木に占めるコンテナ苗の割合は低位であり、これら苗木の増産及び造林への利用拡大が求められています。

シンポジウムには、全国から苗木生産者や造林関係者、研究者、行政関係者など約3百名が参加し、それぞれの立場での取組、そしてお互いの協力が必要であるとの認識が共有されました。今後、コンテナ苗を活用した低コスト造林に向けた関係者の取組が広がることが期待されます。

【基調講演と主な報告】

基調講演では、はじめに一般社団法人日本森林技術協会の中村松三氏から、コンテナ苗とこれまでの調査で明らかとなってきたコンテナ苗の特徴が紹介されたほか、伐採・搬出に使用する林業機械を活用して、伐採・搬出と平行して地拵を行い、その直後にコンテナ苗の植付を行う低コスト化に向けた一貫作業システムの有効性などが紹介されました。今後については、コンテナ苗生産技術の改良と高度化、地域における一貫作業システムの実証・評価、関係者相互の連携が必要であるとの提示がなされました。

また、東京大学大学院の丹下健教授からは、コンテナ苗は、植付時に細根が損傷を受けにくいことが高い活着率を実現していること、その後の初期成長を良くするためには、葉量と根量のバランスがとれていることが必要であることが示されました。

実践者報告では、岩手県の吉田正平氏、宮崎県の長倉良守氏など苗木生産者から、実際のコンテナ苗の生産現場における、コンテナのサイズの選択、培地作りや水管理、作業の効率化等についての検討状況や、育成のポイント等について報告が行われました。



パネルディスカッション